



## 第 26 回森林と市民を結ぶ全国の集い 2022

# 森は誰のもの? ~森林コモンズを考える~

## 報告書

■2022年5月18日(水)~6月4日(土) オンライン配信

### ■主 催

「森林と市民を結ぶ全国の集い 2022」実行委員会

公益社団法人国土緑化推進機構

実行委員長：内山 節（哲学者／NPO 法人森づくりフォーラム代表理事）

### ■後 援

美しい森林づくり全国推進会議／全国市長会／全国森林組合連合会／  
全国知事会／全国町村会／全国林木材組合連合会／日本林業協会／林野庁

■事務局：特定非営利活動法人 森づくりフォーラム

森林と市民を結ぶ全国の集い 2022

## 目 次

1. 開催趣旨・日程・プログラム概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2P
2. 各プログラムレポート・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6P
3. 参加実績・参加者アンケート・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24P
4. これまでの「森林と市民を結ぶ全国の集い」・・・・・・・・・・ 36P
5. 「森林と市民を結ぶ全国の集い 2022」実行委員スタッフ名簿・37P

## 開催趣旨・日程・プログラム概要

### ■開催趣旨

多様な生き物が共存する森林、そのすばらしさや大切さを私たちは知っています。

空気や水、炭素固定、生物多様性、災害の軽減、木材生産など、

豊かな環境と私たちの暮らしを守り育む森林は、

私たちが多くの恵みを受けている「社会共通の資源＝コモンズ」です。

一方、環境破壊や乱開発、気候変動による影響などによって、

森林のこれからが危惧されています。

森林への危惧が大きくなると同時に、森林への期待も大きくなっています。

これからの社会も自然環境も持続可能なものとするためには、

社会共通の資源である森林をどう守り、活かしていくか、

森林の恩恵を受ける私たち自身が考えていくことが重要です。

今回の集いでは、これからの社会における

「新しいコモンズとしての森林」を再認識し、

市民が積極的に森林と関わるような行動変容を促すために、

何が必要でどんなアクションを起こすべきかについて議論したいと思います。

## ■日程

実施日時	プログラム名
5月18日(水) 19:00~21:00	オープニングセッション(～19:20) / 分科会1(19:30~21:00)
5月26日(木) 19:30~21:15	分科会2
6月1日(水) 19:30~21:00	分科会3
6月4日(土) 14:00~17:30	分科会4(～15:45) / クロージングセッション(16:00~17:30)

## ■参加費

項目	料金	アーカイブ視聴
基調講演のみ視聴希望者	無料	不可
早割(全プログラム参加)	1000円	可
一般(同上)	1500円	可
学割(同上)	500円	可
応援・協賛①	3,000円	可
応援・協賛②	5,000円	可

※応援・協賛でいただいたお金の一部は「緑の募金」に充当。

## ■プログラム一覧(出演者 敬称略)

### ◇基調講演 <これからのコモンズと市民参加、森林から考える社会共通資本>

- ・内山 節(哲学者/NPO 法人森づくりフォーラム代表理事)  
『これからのコモンズと森林』
- ・占部 まり(宇沢国際学館 代表取締役/内科医/日本メント・モリ協会代表理事)  
『社会的共通資本としての森林～我々がよき祖先となるために』

### ◇オープニングセッション

5月18日(水) 19:00~19:20

主催者挨拶	内山 節(実行委員長/哲学者) 沖 修司(公益社団法人国土緑化推進機構 専務理事)
来賓挨拶	安高 志穂(林野庁 森林利用課山村振興・緑化推進室長)
趣旨説明とスケジュール紹介	鹿住 貴之(副実行委員長/(認定NPO法人 JUON(樹恩) NETWORK 理事・事務局長))
司会・進行	石山 恵子(遊学の道 project 代表)

### ◇分科会1「森林コモンズとビジネス」

5月18日(水) 19:30~21:00

<どうなる?気候変動 脱炭素経営と森林の関わり>

話題提供	原 裕（株式会社メンバーズ 執行役員） 國岡 将平（合同会社 MANABIYA 代表）
コーディネーター	水谷 伸吉（一般社団法人 more trees 事務局長）
コメンテーター	坂本 有希 （フェアウッド・パートナーズ/一般財団法人地球・人間環境フォーラム）

◇分科会2「森林コモンズと生態・景観」 5月26日（木）19:30～21:15  
 <風景は誰のもの？～景観から読み解く“私たちの”自然資本>

話題提供	廣瀬 俊介（ランドスケープデザイナー/風土形成事務所 主宰） 保 清人（株式会社ロスフィー 取締役/工学院大学 建築学部非常勤講師）
コーディネーター	赤池 円さん（私の森.jp 編集長） 後藤 洋一さん（NPO 法人樹木・環境ネットワーク協会 事務局長）

◇分科会3「森林コモンズと災害・復興」 6月1日（水）19:30～21:00  
 <九州北部豪雨による森林被害と復興>

話題提供	小森 耕太（認定 NPO 法人 山村塾 理事長） 杉岡 世邦（有限会社 杉岡製材所 代表取締役社長） ※ご都合により欠席されました 知足 美加子（九州大学 芸術工学研究院 教授）
コーディネーター	朝廣 和夫（九州大学大学院 芸術工学研究院 准教授）

◇分科会4「森林コモンズと所有・活用」 6月4日（土）14:00～15:45  
 <みんなで森を利用する価値とモラルを考える>

話題提供	小野 なぎさ（一般社団法人 森と未来 代表理事） 田口 房国（株式会社山共 社長/Forenta） 宮川 卓士（合同会社 百 業務執行社員）
コーディネーター	舩 昌汰（合同会社 百 代表社員）

◇クロージングセッション 6月4日（土）16:00～17:30  
 <これからのコモンズと市民参加、森林から考える社会的共通資本>

パネラー	坂本 有希 （フェアウッド・パートナーズ/一般財団法人地球・人間環境フォーラム） 赤池 円（私の森.jp 編集長） 星野 晃一郎（株式会社 ダンクソフト 代表取締役） 矢島 万理（(公社) 国土緑化推進機構 政策企画部）
コメンテーター	内山 節（哲学者/NPO 法人森づくりフォーラム代表理事）
コーディネーター	鹿住 貴之（認定 NPO 法人 JUON(樹恩) NETWORK 理事・事務局長）

## 各プログラムレポート

### 基調講演

#### ① これからのコモンズと森林

内山 節（哲学者/NPO 法人森づくりフォーラム代表理事）

・ショート版動画 URL

<https://youtu.be/IYANglqGcMg>



森林には管理、利用するメンバーが確定している共有林と、私有林だが地域の人々の限定的な利用が入り会いとして認められている入り会い林、さらに私有林とがある。この点で言えば、共有林と入り会い林がコモンズの森ということになるが、私有林もまたコモンズ的性格を帯びているのが普通だった。

近代的な所有権法では、所有は独占的占有権、独占的利用権、独占的処分権の三権からなるとされている。だから所有者の許可なく立ち入ることもできないし、利用することもできない。

ところが日本の伝統的な森林所有の考え方はそうではなかった。生きている立木と、生活上立木に準ずると考えられているものだけが、所有者のものだとされてきたのである。だから他人の山に入って、薪にするために枯れ木や落枝を持ち帰ることはできたし、山菜や茸などの採取も地域社会に開かれていた。

このかたちを私は、「総有の網がかかっている」

と表現している。「総有」とは、私有なのだけれどみんなのものでもあるという所有のかたちである。私有地にもまたコモンズ的性格が付与されていた。

ところで、共有林や入り会い林、総有的性格を併せもつ私有林にしても、それを利用できるメンバーは村落共同体の構成員にかぎられていた。地域社会の仲間に対して開かれていたのである。

ところが今日では、森を開くと都市の人たちが山菜や茸、山野草などを採りに来るようになった。さらに業者が大量採取することも珍しくなくなった。この現実を前にして、山を閉じる、即ち近代的な所有権を行使する所有者も生まれてきた。

森に、地域外の人たちをふくめたコモンズ的性格をどうもたせたらよいのか。みんなの森であるという一面と、森には所有者がいるという面をどう調整していけばよいのか。一方では所有者による管理放棄森林が広がり、他方では森との関わりをつくろうとするさまざまな人々がいる。そういう状況下で、新しいコモンズの森をつくることはできないか。現在ではこのことが課題になっている。

## 基調講演

### ② 社会的共通資本としての森林～ 我々がよき祖先となるために

占部 まり（宇沢国際学館 代表取締役／内科医  
／日本メント・モリ協会代表理事）

・ショート版動画 URL

<https://youtu.be/4ljsDfk-QOs>



私の父・宇沢弘文の人生は、経済学は人々を幸福にするために何ができるのか、人々を豊かな社会に導くために何ができるのか、それを突き詰めた人生でした。

社会的共通資本とは、「地域に住むすべての人々が、ゆたかな経済生活を営み、すぐれた文化を展開し、人間的に魅力ある社会を持続的、安定的に維持することを可能にするような自然環境や社会装置」のことです。それらを市場原理主義、利潤を求める対象、利潤を貪る対象にしない。それが基本的な考え方です。

父は、大学で数学を学んでいたとき、河上肇の『貧乏物語』に出会います。「第二次世界大戦後の混乱した社会において数学のような貴族的な学問をしている場合ではない」と経済学に転向します。そして、ほぼ独学で経済学の論文を書き、それがアメリカの著名な学者の目にとまりアメリカに研究生として呼ばれます。

その後、ベトナム戦争がはじまり、成績の悪い学生や反戦運動に参加した学生から徴兵されました。父たちがつける成績によって学生の生死が分かれてしまう。そこで、父たち若い学者は学生に成績をつけないという結論に至ります。そして、社会的な混乱のなか父は帰国します。帰国当時の日本は高度成長期でした。ところが、一方で、水俣病などの公害問題が起っていました。発展するためには弱者を犠牲にしてもかまわないという経済成長。そこで書いたのが、大切なものはお金に替えないという経済学です。

『自動車の社会的費用』は 1974 年に出版されました。自動車事故で人の生命が失われるということは金銭では決して代替できない。悲しみは金銭では計れない。交通事故が起こらないような街をつくる費用は、自動車から利益を得る人たちが負担すべきだという考え方です。これは、地球温暖化の問題とも共通しています。

自然は、人間が生きていく為に欠かせないものであるから守っていかなくてははいけない。そういったことも経済システムで考えなくてははいけないと言ったのは父がはじめてです。私は医療者として、人生は継承されるものであると感じています。父は 2012 年に亡くなりましたが、私がこうしてお伝えしたいという気持ちも父がいなければなかったものです。

我々がなぜこの世に生まれてきたのか。それはやはり「よき祖先になるため」ではないでしょうか。そして、よき森林を次世代に残していくため、真摯に向き合って行動を起こしていかなくてはならないのではと思っています。

そのときに「社会的共通資本」という考え方が大きな力になるとと思っています。

## 分科会 1 森林コモンズとビジネス

## <どうなる？気候変動 脱炭素経営と森林の関わり>

### <テーマ>

世界各国が 2050 年までにカーボンニュートラルを実現することを表明するなか、脱炭素経営に舵を切る企業が増えています。こうした流れを背景に、企業が森林に目を向けるケースも増えてきました。本プログラムでは、企業と森林との関わりや今後の可能性を「コモンズ」をベースに掘り下げます。

### <話題提供>

原 裕（株式会社メンバーズ 執行役員）

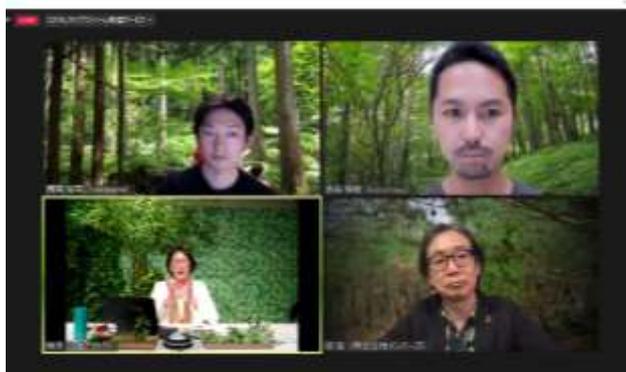
國岡 将平（合同会社 MANABIYA 代表）

### <コメンテーター>

坂本 有希（フェアウッド・パートナーズ/一般財団法人地球・人間環境フォーラム）

### <コーディネーター>

水谷 伸吉（一般社団法人 more trees 事務局長）



### ① 発表者の発言趣旨、印象に残った発言

#### 1 水谷 伸吉さん

全国の地域とつながって森づくりに取り組む more trees の活動の紹介を踏まえて、脱炭素経営にかじを切る企業が増える世界的な潮流を受け、国内でも森づくりや木材利用、カーボンオフセットなどが脱炭素経営の一つの手段として注目を浴びている現状を紹介した。

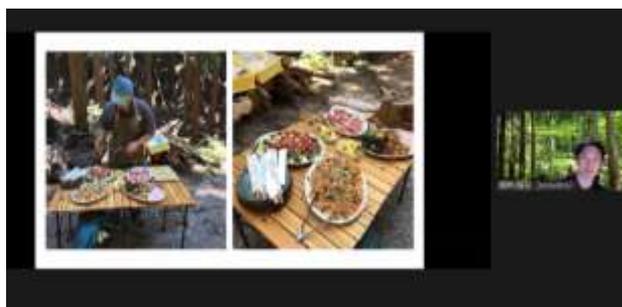


#### 2 原 裕さん

ミッションを気候変動と地域課題をビジネスで解決すると掲げ、大手企業のデジタル・マーケティング支援を行う（株）メンバーズ執行役員の原裕さんは、「社会課題をビジネスで解決しないと、地球も企業も我々も子孫も持続しない」と危機感を訴え、「顧客と企業が共創し、良いお金の循環を促す。それによって社会課題を解決し、同時に持続可能な利益を生み出す」とビジネスの力で日本の森の課題を解決する可能性があることを語った。

#### 3 國岡 将平さん

鳥取県智頭町へUターンし、まちづくりから林業まで幅広い分野で活動する國岡将平さん（合同会社 MANABIYA 代表）は、「智頭の山と暮らしの未来ビジョン」（2020年3月作成）を紹介。町の93%を占める山林と住民がどう向き合い、地域の持続可能性を維持していくのか、その課題と解決に向けた取り組みについて触れた。そして「林業の課題は林業では解決できない」と地域の林業が暮らしと結び付いた中で維持していくことの難し



さを語った。

#### 4 坂本有希さん

自給率が低い日本の木材市場をフェアなものに変えていこうという「フェアウッド・パートナーズ」の考え方を紹介したうえで、森林には炭素蓄積の機能だけではなく、森に生息する生き物にとってのすみか、地域に暮らす住民にとって暮らしに使う資材や文化の土台となるなど様々な価値があることに触れた。脱炭素の視点だけで森づくりに参入しようという都会の企業には、森の多様な価値にも目を向けてほしいと訴えた。

#### ② まとめや感想など

山村地域の多様な価値を持つ森をコモンズとして未来に残していくために、業種や地域を超えたパートナーシップが求められていることが改めて浮き彫りとなった分科会だった。

登壇者が山村地域で森づくりに携わる國岡さんと、IT企業で脱炭素を本業で解決しようという都会の民間企業の原さんという、ある意味両極端の立場にある登壇者の発表から、森づくりをどう見ているのかを知ることができた。一方で、今回の全体テーマである「コモンズ」に引き寄せた議論をもう少し深掘りしてみたかった。



<報告者> 坂本 有希

(フェアウッド・パートナーズ/一般財団法人地球・人間環境フォーラム)



## 分科会1で寄せられた質問（未回答）

・ 山林生態系の成長とは何を指していますか？

・ 近年、教育現場では、SDGs、起業家養成の流れがあります。森林を舞台に、SDGsの学び、起業家を養成するには、どのような事が必要でしょうか。

・ 森林の持つ価値というのは、今の資本主義の貨幣価値では計算できないと思います。その価値を維持するために働く林業者を確保するためにどのような制度などがあれば良いと思われますか？

・ 行政書士法人で相続案件に従事している者です。相続の際「山を相続したけど使えない」ひとと、「山を所有していないけど使いたい」ひとをマッチング出来たらなと思います。また、今回のコモンズという点や利用される里山が増えたらなと思っています。日本国内でマッチング/共有を上手に取り組みされている地域があれば教えていただきたいです。また、相続の面での課題や解決策などもコメント頂けたら幸いです。

・ 人材育成についてですが、息子が京都府立林業高等学校で学んでいます。別の件の林業高等学校だと文科省系列だと学生育成の給付奨学金があるが京都府立は林野庁でその給付金が使えず。林業家の育成では同じなのにとったり。今日の内容のようなことももっと知ってほしいなど

・ 森林との関わりを考えると、企業が超長期的視点で諸々考えられると良さそうに思いますが、どのような切り口が良さそうでしょうか？

・ いまの日本の山の状況で木材を持続可能に自給していくことは可能なのでしょうか。また、広葉樹と針葉樹の適切な割合などはあるのでしょうか。

## 分科会 2 森林コモンズと生態・景観 ＜風景は誰のもの？～景観から 読み解く“私たちの”自然資本＞

「森林コモンズ」は、地域民が共同で活用する森林、というだけでなく、その土地の文化や情感、風土を育む土台としてもたいせつな存在です。本分科会は、森林コモンズをランドスケープの文脈から観ることで、土地の所有権本位から離れ、そこにある全体を私たちの自然資本としてとらえる視点を学びます。景観・ランドスケープは、人の営みが作り出すものでもあり、私たちの暮らし・文明を振り返る「ものさし」にもなり得るものです。当日はランドスケープ・デザインで活躍されるお二人をゲストにお迎えし、景観の読み方や景観の形成に関わる方法など、立体的に探ってゆきます。

### <話題提供>

廣瀬 俊介 (ランドスケープデザイナー/風土形成事務所 主宰)

保 清人 (株式会社ロスフィー 取締役/工学院大学建築学部非常勤講師)

### <コーディネーター>

赤池 円 (私の森.jp 編集長)

後藤 洋一

(NPO 法人樹木・環境ネットワーク協会 事務局長)



### ① 発表者の発言趣旨、印象に残った発言

『風景の生態学』 廣瀬俊介さん

私たちの前に広がる「風景」。風景というのは、さまざまなものごとが関係しあってできている。風景を読み解くことの意義、魅力とともに、自然と人間の営みの関係について、ランドスケープ・デザインの観点からお話いただいた。

自然が織りなす風景は長い時間をかけてできているということ、そしてどの土地にも人が手を加えて今に至っており、風景はまさに人と自然の関係の現れとも言えます。

風景は街づくりです。宅地開発により失われていく自然風景がある一方で、治水対策により豊かな自然環境と宅地が共存できている風景づくりの取り組みがあることを紹介していただきました。生活者が自然を利用しようとするときに、自然の振る舞いにしたがって無理のないデザインをしていくことで、管理がしやすく、自然との調和がとれる例を提示していただいた。



### 『居心地のいい場所～我々は森のどこに居たいのか』 保清人さん

そもそも人は森の中のどこに惹かれるのか、古くは中世の風景画などに見られるように、森の周辺部にヒントがある。周辺部というのは、森に至るアプローチであったり、出口であったり、あるいは中心部に開いた広場のような場所であったりして、そこは人が集う、いわゆるコモンズにあたる部分でもある。



大学キャンパスにつくられた森が、心地よい居場所となって人を集めている事例や、ランドスケープという点でも、人工空間に森の資源や要素を加えることで心地よい空間を創出することができる事例などを紹介いただいた。

## ② ディスカッションで印象に残った発言

・風景・環境づくりをするときには、歴史的観点から風景を読み解き、元々の地形や特性を扱うことで、自然の力を活かすことができるというのは、重要な視点と感じました。

・森や環境に関心を持つ人を増やすには、森の淵に関わることができる人を増やすこと、森を活かし、木を使いながら人々の憩いの場となる。そうした場所がcommonsとして求められているということに気づかされました。

## ③ 報告者の感想

ランドスケープという分野活躍されているお二人の視点はそれぞれに独特でした。風景という大きな視点から森を読み解くことで、歴史から空間・材料としての利活用にまで話が及びました。特に、自然をよく観察してデザインに応用していくこと、そして、人工的な空間に森の要素を取り込む重要性和里地里山のような環境がこれからもみんなの居場所になる・・・という点において、今後ますます住環境とその近くの緑地をどのように生活で共有していく社会づくりができるかが重要になっていくのではないかと感じました。

<報告者>後藤 洋一

(NPO 法人樹木・環境ネットワーク協会 事務局長)

※廣瀬俊介さんの当日発表資料の完全版が WEB で公開されています。下記 URL をご参照ください。

『風景の生態学

A note on the ecology of landscapes』

<https://shunsukehirose.blogspot.com/2022/08/>





## 分科会 3 森林コモンズと災害・復興 ＜北九州豪雨による森林被害と復興＞

平成 24 年と平成 29 年の 2 回にわたって九州北部地域は豪雨災害に見舞われました。森づくり団体、製材業、研究者の立場から地域内外の方々と共に復旧・復興に取り組んできた事例を通じて、森林・コミュニティ・人々の関係性を考えます。

### ＜話題提供＞

小森 耕太（認定 NPO 法人 山村塾 理事長）

杉岡 世邦（有限会社 杉岡製材所 代表取締役社長）

※ご都合により欠席されました

知足 美加子（九州大学 芸術工学研究院 教授）

### ＜コーディネーター＞

朝廣 和夫（九州大学大学院 芸術工学研究院 准教授）

### ＜テーマ＞

平成 24 年と平成 29 年の 2 回にわたって九州北部地域は豪雨災害に見舞われました。

森づくり団体、製材業、研究者の立場から地域内外の方々と共に復旧・復興に取り組んできた事例を通じて、森林・コミュニティ・人々の関係性を考えます。

### ① 発表者の発言趣旨

#### 1. 小森 耕太さん

山村塾が活動する福岡県八女市黒木町笠原地区は、2012 年 7 月の九州北部豪雨で大きな被害を受けた。山村塾はこれまでのボランティア活動のつながりを活かし、災害支援活動に取り組み、2 年間で 3500 人が支援活動に携わった。道具の取り扱いに慣れている会員がたくさんいるなど、森林・棚田のボランティアと災害ボランティアには親和性がある。森林ボランティアの運営の仕組みを活用して、比較的スムーズに活動することができた。

#### 2. 知足 美加子さん

2017 年九州北部豪雨では 21 万トンもの大量の流木が発生。怒りが木に向けられるようで、林業関係者は加害者であるかのような苦しみを感じていた。命としての木を活かす方法はないかと、災害流木で水の守り神である竜の彫刻をつくり、新しい小学校に届けた。「これがあるから災害が起きない気がする」と子供たちは言った。

災害の復興支援は、「昨日とつながらない今日を生きる」ということだと思う。復興には、創造の主体として関わる仕組み、楽しいからするという能動性が必要。ものだけでなく、イメージを資源として考えることが大事だと思う。

### ② ディスカッションで印象に残った発言

知足「中越地震で作品寄贈した経験があり、それが今回の支援にもつながった。小森さんも、いろんな人から話を聞いて、いつの間にかシュミレーションしていたのかも。」小森「昔だったら集落の中の知恵や特技をもった人が祭りで活躍したり、災害が起きたときに汗を流したりしてきたが、今は難しい。熊本地震や朝倉での水害の際に行った山村塾の災害支援は、見ず知らずの人のところに行ったのではなく、昔からの仲間のところに災害ボランティアの初動のお手伝いに行った。そういった横のつながりが大切だと思う。」

### ③ まとめ・感想

今後、ますます災害が増えて来る。九州での水害が、どこでも起きようになる。農山村のコミュニティが支えてきたことを、新たなコミュニティと一緒に手を組んで、農山村や森を支え、災害の時には力を合わせて、早い復興を進めていくことが重要になる。また、森や農山村に関わりがない人も、アートによって「面白そう」と感じてもらうことで、自分事として参加する場が築かれる可能性がある。一方、多くの人、いろいろな人たちの関りが生まれると困難なこともあるが、よいイメ

ージへ上方修正するようなマネジメント、未来構  
想を共有してくれる人が大切で、それを担うこと  
ができるのがアーティストや森林ボランティアな  
のかもしれない。

報告者：小森 耕太（認定 NPO 法人 山村塾 理事長）

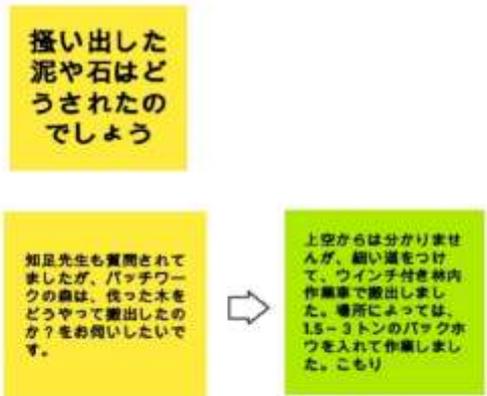
### 分科会3：感想、気づき、印象に残ったことなど、ご自由に

「森林コモンズと災害・復興」 6月1日(水) 19:30-21:00 <九州北部豪雨による森林被害と復興>

分科会3 (6月1日 19:30-21:00 予定)



### 分科会3で寄せられた質問 ( 回答済み )



## 分科会4 森林コモンズと所有・活用 ＜みんなで森を利用する価値とモラルを考える＞

アウトドアブームにより、森に入りたい、あるいは森を購入したい市民が増えています。一方、森の所有と活用の際には、モラルや安全面などの問題も付きまといまいます。そこで分科会4では、実際に森林を市民に貸し出している、または市民と活用している事業者が各々の活動を紹介し、対話の機会を持つことで、市民の健全な森林活用と所有についての理解を深めます。

### ＜話題提供＞

小野 なぎさ（一般社団法人 森と未来 代表理事）

田口 房国（株式会社山共 社長／Forenta）

宮川 卓士（合同会社 百 業務執行社員）

### ＜コーディネーター＞

舩 昌汰（合同会社 百 代表社員）



### ① 発表者の発言趣旨、印象に残った発言

#### 1 小野なぎささん

森と未来は、「山村地域の森で木材生産以外の新しい産業を生み出したい」と「都市住民が自然と触れ合うことで心身ともに健康な人を増やしたい」の双方を満たすことを目指している。1982年に当時の林野庁長官が提唱した『森林浴』を行

うことで、フィトンチッドによって身体への健康効果が得られる。今ではアメリカや中国など世界中から依頼が来ており世界中に広まってきている。また、日本でも森林浴ファシリテーター養成事業も行っている。森林浴は世代によって全然感じ方が違う。

### 2 宮川卓士さん

合同会社 百で山を購入し、自伐、葉枯らし乾燥、玉切りを行った。伝統構法大工が、現地製材を行ったうえで、木組みで宿の建築を行った。また、現地の粘土と稲わらで土壁を作った。最初は、20代3人で始めたが、今では若い人たちがたくさん来てコミュニティを形成している。大学サークルの学生や地域の方々などもたくさん関わりながらプロジェクトが進行している。自罰型林業を行うことで、災害に強い山づくりを行っていく予定である。

### 3 田口房国さん

これまで製材をやっていたが、Forentaという市民向け森林レンタル事業を始めた。これまでは、山主や林業家たちは、市民が山に入ることを嫌がる傾向にあったが、林業分野の人が自ら市民に山を拓き、利用してもらったということに大きなイノベーションがあった。Forentaとしては、林業界隈の人たちが心を開いて市民を山に受け入れられる文化を形成することで、林業界隈および市民双方にとってプラスになることを伝えていきたいと考えている。

### ② ディスカッションで印象に残った発言、Q&Aなど

Forentaは森林利用において最低限のルールしか作っていない。例えば10cm以下の木は勝手に切つてよいなど。また、トラブルが起きた時は、森林利用者同士で、解決をしてもらっているという点が印象に残った。例えば、区画ごとに割り振っているのに、水を勝手に引いてしまうと隣の区画

は水が提供されないなど。都会に住んでいるとルールを明文化したがるが、人と人との関係なので、起きた問題を対話の中で解決していくことが大事だと考えている。

### ③ まとめや感想など

森林の価値を自分たちなりにうまく見つけてそれぞれが工夫をしていくことが、明るい森の未来につながっていく。森林コモンズも重要であるが、それ以前に人としてのモラルのほうが大事である。最低限の知識が無いと何が正しいのかわからない。森林に限らず、自分の考えが正しいと固執しすぎると対話がうまくなくなるので、日々知識を拡充していくとともに、相手を否定するのではなく相手を受け入れることで、お互いを認め合う姿勢が大事である。

報告者：中安 佑太（合同会社 百（MoMo））



### 分科会4：感想、気づき、印象に残ったことなど、ご自由に

「森林コモンズと所有・活用」 6月4日(土) 14:00~15:45  
 <みんなで森を所有する価値とモラルを考える>

forenta



### 分科会4：感想、気づき、印象に残ったことなどご自由に

「森林コモンズと所有・活用」 6月4日(土) 14:00~15:45  
 <みんなで森を所有する価値とモラルを考える>  
 ディスカッション



分科会4で寄せられた質問 ( 未回答 )

森林浴の効果に関して  
質問① 木から電磁波が  
出ていると聴きました  
がその効果は？② 木か  
ら出る音は、聴診器で  
聴くことができるので  
しょうか？その効果は  
あるのでしょうか？

レンタルした人  
は、どこまで手  
をいれてよい？  
草刈り、低木  
切り、間伐、穴  
を掘る・・・

林業関連の仕事をしてい  
ると、森林浴やキャンプ  
などと都市住民が入りや  
すい森林は林業がしやす  
い場所でもあるかなとい  
うイメージですが、素材  
生産業者や森林組合等の  
林業関係者とバッティ  
ングは無いでしょうか？ま  
た、逆に山の奥地の利用  
をした例はありますか？

踏圧など植生への負荷  
が気になりますが、全  
体面積のうちどのくら  
いがレンタルスペース  
になりますか？ また  
保全エリアなどの設置  
はありますか？

森林レンタルについて  
質問①一日や月単位での  
レンタルはしないので  
すか？②森林を解放して  
一番良かったと思う事  
はなんですか？

分科会4で寄せられた質問 ( 回答済み )

山村地域の過疎化が進  
んでいる中で、山村へ  
の関係人口を増やすこ  
とは重要だと私は考え  
ますが、森への興味を  
継続させるために、意  
識されていることはあ  
りますでしょうか？

(→つづき) また、企  
業の研修などで自分の  
意思じゃなく来られた  
方のその後、(一回き  
り、森林浴を始めまし  
た等)の情報があれば  
ご教示いただけますと  
幸いです。

## クロージングセッション

### 『これからのコモンズと市民参加、森林から考える社会的共通資本』

#### <パネリスト>

坂本 有希 (フェアウッド・パートナーズ/地球・人間環境フォーラム)

赤池 円 (私の森.jp 編集長)

星野 晃一郎 (株式会社 ダンクソフト 代表取締役)

舩 昌汰 (合同会社 百 代表社員)

#### <コメンテーター>

内山 節 (実行委員長、哲学者/NPO 法人森づくりフォーラム代表理事)

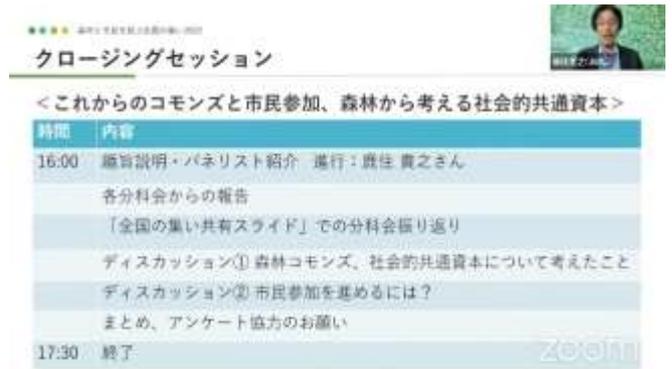
#### <コーディネーター>

鹿住 貴之 (副実行委員長、認定 NPO 法人 JUON (樹恩) NETWORK 理事・事務局長)



基調講演「これからのコモンズと市民参加、森林から考える社会共通資本」(内山節さん「これからのコモンズと森林」、占部 まりさん「社会的共通資本としての森林～我々がよき祖先となるために」の2つ) および4つの分科会を通して、今回のテーマ「森は誰のもの?～森林コモンズを考える～」について、深めてきた。その議論を踏まえ、実行委員長と各分科会の担当者に登壇いただき、「これからのコモンズと市民参加、森林から考える社会的共通資本」についてあらためて議論した。

#### ① 森林コモンズ、社会的共通資本について今回の「全国の集い」を通して考えたこと



#### 1 坂本有希さん (フェアウッド・パートナーズ/一般財団法人地球・人間環境フォーラム)

基調講演の内山節さんの「かけがえのない森を持てるのか?」という問いに対して、持てるはずだと思いたい。都会には様々な人がいて、全員が同じように関心を持つ必要はないが、あるべき姿で森を未来に残すためには、森に対する理解や認識を擦り合わせる必要があるのではないかと。担当した分科会「ビジネス」の観点から考えると、企業は資金力も情報もあり、一般の方への情報発信力も高い。山側がもっと企業の力を使って、伝えることをしてもよいのではないだろうか。

#### 2 赤池円さん (私の森.jp 編集長)

「かけがえのない森」「置き換えられないような森」というのは、その森で育った物を食べるなど、自分の命を再生産することと関わりが深いと、そうなるのではないかと。もう一つ、学校の校歌に歌われるなど、皆で思い出せるような景色にある森、所有感覚や生物的分布など全てを越境した、かたまりとして捉えられるような森の感覚も持っていたと思った。また、感覚を開いて、自然の中に拡張していく感じが大事なのではないかと。そうすると、未来に対して残せるものも、得られるものも増やせるのではないだろうか。

#### 3 星野晃一郎さん (株式会社ダンクソフト 代表取締役)

人と自然と機械の協働、共創の時代が来てい

る。5G という通信網は、5 キロメッシュで日本全国を覆おうとしている。究極的には人間がいなくなってもロボットが木を伐り続けるという、昔のマンガのようなことが起きるかもしれない。そういう時代に求められるのは人間の感性。モラルも含めてソーシャルキャピタルの高いコミュニティを、どう知り合いを増やして、小さくてもよいので作って行くのが大切だと思う。今いる神田のオフィスで藍を育てているが、紺屋町周辺で子ども達も含めて藍染めの活動を広げている。

#### 4 舩昌汰さん（合同会社百 代表社員）

分科会のテーマ「所有と活用」は、いずれも時間をどれだけ積み重ねていけるかということだと思っている。自分達は山林を所有し、自らの手で木を伐り、建物も建てて、時間を重ねて来たからこそ愛着がある。森林の力はすばらしいので、まずはどれだけ関わってもらい間口を広げるか。広がった後に、入ってしまえば、どんどん気になってくる。畑は1年サイクルで愛着がわきやすいが、逆に、山は長い期間で見られる。間口を広げて、愛着をもってもらいような時間を提供していくことが大事だと思う。

#### 5 内山節さん（実行委員長／哲学者／NPO 法人森づくりフォーラム 代表理事）

SDGs について、賛成し、意義も感じるが、今ひとつ気持ちが乗らない人は多いのではないか。それは、欧米が作った基準だからだろう。欧米社会は、社会は生きている人間が作り、生きている人間同士で、どのような契約を結べば、よりよい社会ができるか、持続できるかという発想である。一方、日本社会は、伝統的には生きている人間だけの社会ではない。自然と人間の社会であり、人間も亡くなった先輩も社会を支えているメンバー。更に、それを支えているのが神や仏で、自然と生者と死者と神仏の4者が結び合っているという社会観を作ってきた。

そして、森は神仏の世界。神や仏は、欧米と違って超越的な絶対神ではなく、我々に寄り添ってくれ、仲間でもあるが、力は持っているという存在である。日本は明治以降欧米化し、生きている人間の論理で物事を考えるようになった。もう一度、森は神仏の世界だということを、日本の神仏とは何かを含めて、取り戻していく必要があると思う。共有された世界というのは、神仏の世界。どこかにいつも神仏を感じているというようなことではないと、日本の森は契約だけでは守れない。企業に来てもらうのはよいことだが、契約関係だけでは持続性がない。契約を越えた、神仏的世界の共有感は、ありがたく、守らなくてはいけないし、これからどのように復活させていくのが課題である。

#### ② 市民参加を進めるにはどのようなことが考えられるか？

##### 1 舩昌汰さん

利用している裏山の山頂に、ほこらがある。蔵王山の噴火があった際、飢饉が収まるよう奉納したもの。今は鳥居もなく、桜の木も杉で隠れているが、山頂までの階段を作っている。近くに別荘地があり、人も住んでいるので、自由に散策してよいと案内をしたいと思う。森林に入ってもらったら、そのうち一緒に階段を作りませんか？と誘いたい。そうすれば、かけがえのない森になっていくのではないか。身の回りから広げていきたい。

##### 2 星野晃一郎さん

ダンクソフトはデジタルの企業で、徳島に社員が4名いるが、コロナ禍でまだ直接会っていない人もいる。様々な場所で働けるようになると、都市の課題や地域の課題が解決しやすくなる。都市は地域に農業など様々なことを押しつけてきた。

ボランティアも含め務めを果たさなくてはならない。昨年オリパラのボランティアをしたが、働き方によっては可能。発想を変えて、お互いに助け合う気持ちがあればできる。デジタルを少し使えば、もっと発展できる。

### 3 赤池円さん

プロボノで情報を集めて翻訳して届けてきた。2019年に団体を立ち上げ、月1回岩手・遠野に通っている。体を使うプラクティス、身体感覚が伴うと、違うものが見える感覚があり、両方必要だと感じる。市民参加を促すには、プラクティスの部分をいかに入りやすくするか。今まで森林ボランティアでは様々なことをやってきたが、定番化している感があり、アートなど全く違う人と交わることで新しい視点、経験を開くことができるのではないかと。古い記憶や記録が根づく寺社に、注意深く足を踏み入れることも大事だと思った。

### 4 坂本有希さん

フェアウッド・パートナーズは海外の森が対象で、国内の活動と組み合わせられないかと思っている。よい解がある訳ではないが、理解すること、知らないことがあることを忘れず、森との関わり方を続けるのは重要。国内の森について考えると、デジタル、コロナなど多くの方が実践することの大切さに気づいたタイミングで、チャンスだと思う。これをいかに根づかせるかを森づくり団体は考えていかなければならない。自然とのつながりが大事という地道な実践を、定着させる機会を逃さないよう、みんなで頑張りたい。

### 5 内山節さん

この「全国の集い」も第1回から随分と変わってきた。木材自給率も当時は10%後半だったが、今は40%台。山村の過疎化も、現在も進んではいるが、新しい人も入っている。山仕事をす

る人もいれば、ITの仕事で入る人もいて、全国的に実に多様になってきた。「全国の集い」の実行委員会も大分若返って、新しいメンバーに代わってきている。そのような中で、新しい森への価値のつけ方、関わり方など、どんどん新しい芽が出てきている気がする。この動きは今後も加速していくだろう。

企業的な参加では、東京に本社のある企業の参加もあるが、自分達で企業をつくって、森に新しい価値をつけていく人達も現れている。様々な動きがあるが、最後は共通するものにつながっていく気がする。それは、森に対する申し訳なさのようなものではないか。戦後、私達は森を荒らしてしまった。それに対して、申し訳ないという気持ちがどうしても出てくるのかと言えば、自分の所有している森であっても、完全な私有財産ではなく、共有財産という意味があるからだろう。その奥には、神仏との共有財産ということがある。こんなことをしていたら、神仏に申し訳ないという気持ちを感じている。森に入ると神々しさを感じる人は沢山いると思うが、神仏の世界という感覚とつながっている。森に対して申し訳ないことをしてきたということは、神仏に対して申し訳ないことをしてきたということと同義語である。

手段としては、IT活用など新しい動きをたくさん起こしながらも、その奥にある申し訳なさのような精神の世界が共有されていく。そのような動きがこれから展開されていくのではないだろうか。

## ② まとめと感想

基調講演では、「都会の人は、かけがえのない森をつくることができるのか?」「交換可能な森から、交換不可能な森にしなければ、森林の総有は難しいだろう」との問題提起があった。市民参加の森づくりは、正にこのことにつながる取り組みであり、全国各地でかけがえのない森が生まれてきたと言える。

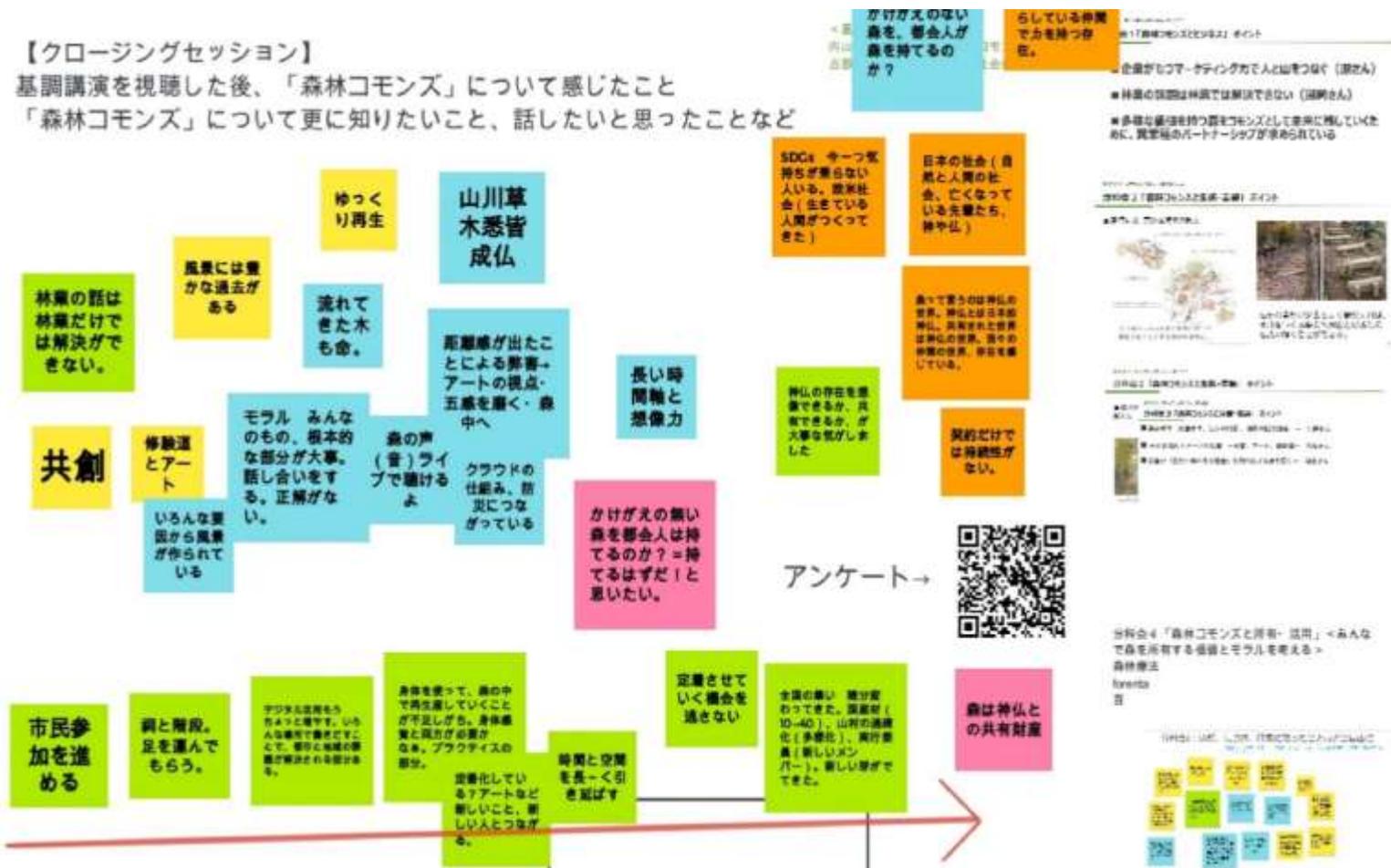
そして、今後の課題となるのは、かつての日本の自然観、すなわち、「森は神仏の世界」という感覚を取り戻していくことなのであろう。それが、森林と人々がつながり、森林が守られていく道なのだと思う。

< 報告者 >

鹿住 貴之 (認定 NPO 法人 JUON(樹恩) NETWORK  
理事・事務局長)

【クロージングセッション】

基調講演を視聴した後、「森林コモンズ」について感じたこと  
「森林コモンズ」について更に知りたいこと、話したいと思ったことなど



## 参加実績・参加者アンケート

### <参加人数>

日程	プログラム	視聴参加者 人数 (最大同時視聴数)
5月18日	オープニングセッション	110人
5月18日	分科会1 森林コモンズとビジネス	116人
5月26日	分科会2 森林コモンズと生態・景観	100人
6月1日	分科会3 森林コモンズと災害・復興	76人
6月4日	分科会4 森林コモンズと所有・活用	72人
6月4日	クロージングセッション	70人
	合計	544人

### <参加チケット申込数>

種別	金額	申込み人数
基調講演のみ視聴	無料	200人
学割	無料	20人
早割り(全参加)	2,000円	256人
全プログラム通し参加	2,500円	52人
応援・協賛参加①	3,000円	23人
応援・協賛参加②「	5,000円	7人
合計		558人

参加費合計金額：399,689円（Peatix 販売手数料を除く）

うち 54,000円を緑の募金に寄付（応援・協賛金の合計より参加費分1人1500円と手数料を除いた金額）

### <森づくり活動紹介キャンペーン>

「森林と市民を結ぶ全国の集い 2022」開催に合わせて、全国で活動する森づくり団体・プロジェクトの紹介キャンペーンを実施しました。WEB ページ、Facebook ページにて各団体の紹介記事を作成・投稿し、活動の認知を拡大しました。

#### 【キャンペーン期間中の紹介団体・プロジェクト名】合計：16

池田町林業グループ（北海道）、YAMAKAS（全国・メディコム株式会社）、NPO 法人 人と木（山口県）、NPO 法人 里山倶楽部（大阪府）、Go to Forest 2022（全国）、龍ヶ井城山の会（茨城県）、木下沢溪谷冒険の森の会（東京都）、青梅幼稚園（東京都）、NPO 法人 加茂女（京都府）、認定 NPO 法人 JUON NETWORK（全国）、INA VALLEY FOREST COLLEGE（石川県）、樹木・環境ネットワーク

ク協会（全国）、一般財団法人 ハヤチネンダ（岩手県）、NPO 法人 ちば環境情報センター（千葉県）、初心者のための森づくり体験会（東京）、認定 NPO 法人 山村塾（福岡県）

キャンペーン記事への Facebook 成果 いいね！合計：2,349 シェア数合計：69 総リーチ数：14,481

### <参加者の居住地域>

**北海道**（札幌市、東川町、弟子屈町、富良野市、余市町、ニセコ町）、**岩手県**（遠野市、釜石市、葛巻町、九戸村、紫波町、盛岡市、金ヶ崎町）、**秋田県**、**山形県**（新庄市、南城市）、**宮城県**（石巻市、仙台市、延岡市、川崎町）、**福島県**（喜多方市、三島町、郡山市、苗代町）、**新潟県**（燕市、新潟市、上越市、）、**石川県**（金沢市）、**富山県**（上市町）、**福井県**（越前市）

**茨城県**（牛久市、鹿嶋市、常陸太田市、日立市、龍ヶ崎市、つくば市、ひたちなか市、結城市）、**栃木県**（益子町）、**群馬県**（伊勢崎市、藤岡市、桐生市、長野原町、渋川市、沼田市、太田市）、**千葉県**（我孫子市、成田市、いすみ市、館山市、市川市、松戸市、船橋市、柏市、千葉市、流山市）、**東京都**（23 区内、国分寺市、府中市、小金井市、小平市、昭島市、西東京市、青梅市、町田市、調布市、東久留米市、八王子市、武蔵野市、立川市、）、**埼玉県**（入間市、飯能市、さいたま市、狭山市、富士見市、ふじみ野市、川越市、秩父市、東松山市、川口市）、**神奈川県**（大磯町、川崎市、相模原市、二宮町、横浜市、鎌倉市、茅ヶ崎市、横須賀市、大和市、南足柄市、平塚市、藤沢市）、**山梨県**（北杜市、上野原市、大月市）、**長野県**（安曇野市、根羽村、佐久市、根羽村、松川村、原村、諏訪市、大町市、長野市、松本市、信濃町、須坂市）、**静岡県**（裾野市、静岡市、三島市、掛川市）、**岐阜県**（東白川村、御嵩町、関市、岐阜市、郡上市、高山市、大垣市、飛騨市、土岐市）、**愛知県**（岡崎市、春日井市、江南市、豊田市、豊川市、豊橋市、長久手市、名古屋市、弥富市）、**三重県**（伊賀市、いなべ市、熊野市、川越町）、

**滋賀県**（大津市、長浜市、彦根市）、**京都府**（亀岡市、京都市、京丹後市、城陽市、長岡京市）、**大阪府**（大阪市、茨木市、河内長野市、富田林市、能勢町、箕面市、寝屋川市）、**奈良県**（黒滝村、曾爾村）、**和歌山県**（那智勝浦町）、**兵庫県**（尼崎市、神戸市、西宮市、加古川市、三田市、丹波篠山市）、**岡山県**（岡山市、高梁市、瀬戸内市、西粟倉村）、**広島県**（安芸郡、広島市、三原市、府中市、福山市）、**鳥取県**（鳥取市）、**島根県**（海士町、津和野町、雲南市）、**山口県**（山口市、周南市、萩市、防府市）、**徳島県**（上勝町、神山町、徳島市、）、**香川県**（丸亀市、まんのう町）、**愛媛県**（西条市、松山市、久万高原町）、**高知県**（安芸市、佐川町、宿毛市）、

**福岡県**（北九州市、春日市、那珂川市、宗像市、久留米市、糸島市、大野城市、筑紫野市、朝倉市、八女市、福岡市）、**佐賀県**（江北町、みやき町、神埼市、唐津市、佐賀市）、**大分県**（大分市、宇佐市、別府市、臼杵市）、**熊本県**（小国町、熊本市、玉名市、菊地市）、**宮崎県**（諸塚村、椎葉村、日向市）、**鹿児島県**（鹿児島市、鹿屋市）

**スウェーデン、デンマーク、アメリカ**（ニューヨーク、フロリダ）、**ブラジル、その他海外**

<森林と市民を結ぶ全国の集いを知ったきっかけ>

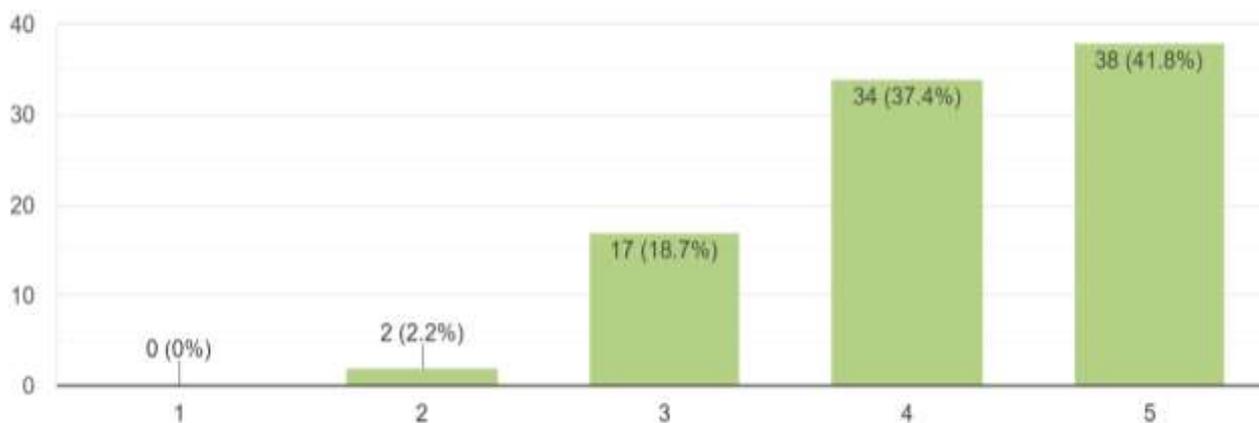
SNS (Facebook・twitter など)	276 人
Peatix	43 人
WEB サイト	21 人
メールマガジン	106 人
知人の紹介	46 人
その他	19 人

※任意、複数回答可

<プログラムの満足度>

5段階評価 (5 : とても満足 4 : 満足 3 : 普通 2 : やや不満 1 : とても不満)

回答数 : 91 件



## ＜各プログラム参加後の感想＞

### ◇基調講演（内山節・占部まり）

- ・ コモンズについて考えさせられた。
- ・ 内山さんの講演は本で読んでいたものの再確認できたという感じで新しい総有関係を都市、ローカルで築くこと、代替できない森づくりに感銘しました。卜部さんの宇沢弘文思想の解説はとても新鮮で社会共通資本概念に自然があつての人世界であることが内山さんの話と通底するところを感じ、著作で深めたいと思いました。
- ・ 予備知識なく視聴させていただいたのですが、素晴らしい基調講演で何年かしてからもまた見直したい内容でした。これからの自分が何をなすべきなのかを考える上で示唆にあふれたもので、エネルギーをいただきました。ありがとうございます。
- ・ 日本社会に合ったコモンズの必要性、協生農業（拡張生態系）を知るきっかけ
- ・ 森林コモンズ論が大変参考になりました。
- ・ 内山先生のご講演では旧来の入会林から現在の開かれたコモンズ利用とその課題を丁寧に説明くださりとても分かりやすく、都市市民や森林ボランティアからの開かれたコモンズ利用がなぜ進まないのか、課題まで例を含めてご説明くださったところが良かったです。
- ・ 占部先生のご講演では、貴重な写真や宇沢先生から伺ったお話などなかなかお聞きする機会のないこと、現在の国際情勢との関わりなど多角的に示唆に富んだご講演でした。消化不良のところがあるのでまた視聴したいと思います。

・ 無料ではとても申し訳ない気がしてなりません  
が、無料だから他の方におススメしやすい面もありました。

・ 内山先生の日本の森林の歴史的背景の解説、とても分かりやすくてためになりました。そして「交換可能な森ではいけない、交換不可能なかけがえのない森をどうやって作っていくかが重要な課題」というメッセージは自分の心に刺さりました。

・ 今まで、どこでもいい、楽しい素敵な森ならどこにでも行ってみよう。。。という消費者根性の自分に気が付きました。もう少し深く付き合える、“交換不可能な森”を意識して自分がどう関わるか考えたいと思います。

・ 内山節さんの総有について。私は高知県佐川町という、地方自治体が山を集約して、自治体の意向にそった委託者(私)が山林の施業をするという全国でも珍しい地域で林業をしています。そこで感じるのは、山は個人の持ち物であると同時に、地域の宝であり、風景であり、防災の要であるということです。そう考えると、個人所有にせず、地域所有としたほうが良いかと考えられますが、一方でそれぞれの山にはそれぞれの山主さんの想い出やストーリー、家族の生き方が詰まっています。そのことは無視できません。そんな想いも、最近では次世代に継承されないまま、相続という重荷になっているのが現状です。占部まりさんの言う、人生は継承されるもの、という視点に立つと、山もまた、個人の想いを地域で継承しながら、次世代に守り残していくことが大切かと思います。「かけがえのない森」にするために、「人間の心」が自然という当たり前にあつて当たり前でないものに寄り添うように、微力ながら尽力していこうと思いました。

・ ちょっと前には、自然が適度に循環する仕組み

があったのですね。多くの人にこんな仕組みが伝わるといいなと思いました。

・現代社会に合うような仕組みづくりはできるものでしょうか？ 一度便利や楽な生活を手に入れると、以前のような生活をそのまま行うことはむずかしいと思います。

・占部まり氏の社会的共通資本の話が印象に残りました

・宇沢さんのことを知る良い機会になった。

・語られた過去の日本での森林と人間の関係は、その当時の人口と自然からの享受が不可欠であった生活レベルがあると思った。

・現代の私たちは、所有や利用の前に、森林と人間の関係をもっと理解し、自分と森林との関係や他者と森林の関係が現在どうあるのか（強制的、積極的、消極的、直接的、間接的、影響を与える、受ける程度など）を個々人が把握することが重要と思った。

・森には所有権と利用権があり共同体によりルールが作られて運営されてきたことがよく分かりました。地方は閉鎖的であると言われることもありますがその地を分かっている大切さに繋がっているのだと感じました。

・共有資本は閉鎖的な共同体であるから成立し得たとは思いますが、現在のようなグローバルでオープンな世界においてどういう形であればありえるか難しい問題だと感じた。

・内山氏の講演は、日本人としてどこことなく懐かしく共感する部分も多くあり、このような共有思想があったことに誇りを感じます。しかしこの印

象が持てるのは我々の世代までで、今の考え方は共感するのは難しいと感じます。山は誰の物か？ 共有資産の考え方はもっともっと皆で考えて時間をかけて、難しいけど見つけ出していかねばならないものなのでしょう。

・（内山講演）新たなコモンズに代替不可能性が重要になりそうなこと。コモンズからの発想に批判的であり、総有に可能性を見出しておられたこと。（占部講演）『自動車の社会的費用』の現代性。数学の意義。「心があって経済が動く」。

### ◇5/18 (水) オープニングセッション・分科会 1: 森林コモンズとビジネス<どうなる？ 気候変動 脱炭素経営と森林の関わり>

・地球は寒冷化に進んでいて、温暖化と寒冷化の寒暖の大変大きな差による災害につながる気候変動が問題ですね。

・原さんのような企業としての関わり方もあるのだなぁと興味深くお聞きしました。限られた時間でもっと掘り下げてお聞きしたかったです。

・マーケティング、社会課題に貢献している企業から商品を購入したいというニーズはあるが、実際に購入には至っていない。→企業側が社会貢献や情報のアピールが足りない。

・脱炭素/再エネに取り組んでいない企業は潰れていくと思うし、そういう風潮になってほしい。

・人間中心の世界をどう変えていくか。森林と生きている、水と生きている、共存している、自然とそういったことが感じる社会をつくっていきたい。

・脱炭素に向けていろいろな取り組みにチャレンジしている仲間がたくさんいることに感激。

・脱炭素、まだまだ日本は世間一般との認識格差があるなと思いました。

・多面的な意見を聞いて大変興味深かったです！

・國岡さんの、いろいろなバランスを整えていくという話の中の「植林するだけでなくそれを育てる人材をつくる」というところを深掘りしてみたかったです。植えるところまではおそらくこれから自然と企業や国が行っていくと思うのですが（やったら目に見えて変化が起こるところに許可やお金は降りやすい）そこをどう持続可能なたちで管理していくかということが本当に難しく、考えていくべきところだと思います。

・脱炭素に、マーケティングの考え方も必要だと気づかされた。企業の視点や注目度が高いことも認識できた。

・智頭町に行きたくなりました。

・森林を守ることは、co2 排出の加速を止める働きと考えればいいのかと思いました。

・やはり、根本的な解決には生産量と生産の質を変えていくことが必要。そのためには、世界規模の社会システムの変更が必要だと思います。

・消化しきれないでいる部分もあるのですが、ずっと感じてきた CSR の限界のような話も聞け、未来への取り組み方のかんがえる機会になりました。

・お寺周りの仕事をしています。使い捨てることの多い塔婆を地域産の杉に変えたり、樹木葬では木の骨壺を使った埋葬などしています。わたし自身は周辺 NPO ですが、マーケティングにきちんと

取り組んでいきたいと思います。

・外的圧力（政府）から企業が脱炭素に乗り出していることで、森林の利用、保全には良い潮流が来ていると感じました。これを継続させるために、いかに市民の意識を脱炭素に向けるのか、マーケティングへの期待が高まります。一方で、そもそもの実行主体である林業従事者への還元する手法の議論が気になりました。

・林業の現場の人は大変だなと感じた。

・ありがとうございます。腰の据わった話題で大変興味深く、消費者、生活者として何ができるのかもしっかりと取り組んでいきたいと感じました。今は、答えが見つからなくても進むべき時だというお話は大変心強く受け止めました。

・予備知識のない素人ですが興味を持ったので参加しました。森林自体を目的とするのか手段とするのか、どちらの側面もあるのだと思いますが考えるほど難しいなと思っています。もう少し勉強してみようと思いました。

・原さんと國岡さん、お話は両極でしたが目指したい場所は(私とも)近いのだろうなあ〜とぼんやりと考えております。

・企業サイドの様々な取り組みは非常に興味深く期待しますが、利益のためだけでなく、本当に地球のためになるのか、私たち消費者もしっかりみていかないといけないと思いました。

・フェアウッドを調べて フェアウッドカフェがあることを知り、現在林業大学に通う息子は山仕事につくと小学生の頃から決めており、高校生の娘はグラフィックデザインやカフェ経営に興味があり、私は農や山仕事や環境教育に興味がある

ので、そのフェアウッドカフェのようなビジョンに希望が持てました。以前は森林ボランティアで少し森に関わっていたのですが理想の森プロジェクトが終わり、勉強すれどもアウトプットするところなく一消費者としてくらいしか今後もどうつながれるかわからないのですが。全部が印象に残ったことでもあり、いっぱいノートに書き連ねているので、後ほど振り返り深めたいと思っています。

・林野庁は木造や内装の木質化などの炭素貯蔵量の見える化を進めているが、今回、Jクレジットのところでふれられたように、これらもクレジットの対象とすれば、いっそうの木造・木質化が進むのではないか。

・私は林業従事者ですが、毎日車で山に行き、重機を使い、チェーンソーを使って木を切っています。カーボンニュートラル、脱炭素。誰かがやってくれることではなく、自分から始めること。だからといって、斧と鋸で木を切れるかといえば難しい。その揺らぎの中で、どうニュートラルに持っていくか、考え行動していきたいと思います。

・「森林をベースにした起業家は、増えている」という事です。

・日本の森の保全に携わる若い世代の人がいることを嬉しく思いました。また、脱炭素、気候変動の観点では従来のCSRは、所詮企業イメージのアップでしょ、というちょっと冷めた見方をしていますが、今は企業も本気で脱炭素を目指すことが求められ、私たち消費者も自分の消費行動がその結果に結びつくということをしっかり意識して行動しなければならないと思いました。どちらか一方だけの努力では結果に結びつかない。

・社会共通資本としての森の役割を再認識しまし

た。

・木材を長期期間使用することが、炭素固定に役立つというのは、考えれば当たり前だが、なかった視点だったので、今後の生活に生かしていこうと思えました。

・メンバーズ(株)の積極性。智頭町での國岡氏の全体的な取り組み。水谷氏の真摯な姿勢。

### ◇5/26(木)分科会2:森林コモンズと生態・景観<風景は誰のもの?~景観から読み解く“私たちの”自然資本>

・まちづくりはその歴史を知るところからはじまる、という廣瀬さんの言葉に大きくうなずきました。

・ランドスケープ、生態系から森を考える視点は初めてで新鮮で学びになりました。

・廣瀬さんの広がりのあるお話がとても印象的でした。

・絵画から見る森、という視点や、デンマークの大学発の森づくりの話が新鮮でした。廣瀬さんのお話は何度か伺ったことがあるのですが、改めて興味深かったです。

・ランドスケープデザインに興味が増えました。

・昔ながらの山村風景や自然が生み出している状況が災害防止や地形の維持に貢献しているということ。

・「自然の成り立ちを観察する中で豊かさを作る、享受する」「都市の中に森のエッセンスとして涼しさを呼び込む」がとても印象に残ったことです。

・ Commons からかなり離れた内容だったと言う印象。

・ 全編食い入るように惹きつけられました。とても有意義で、勇気づけられました。古い庭園と建物の保存に関わっているのですが、色々考えることができ、まだまだできることがあるし、まだまだいい場所になるだろうなと思うことができました。うまくお伝えできないのがもどかしいですが、視野が広がったように思えて清々しいです。ありがとうございます。

・ 人間と自然（森林）の調和と共生。これからの世界に必要なサステナビリティからリジェネレーションへというコンテキストの中で人工的に自然を本来の姿に戻しながら、人間の文化的な活動や社会も共生していくための道筋と可能性を考えさせられました。

・ 廣瀬さんの俯瞰から接写までの視点はものすごく気づきがありました。どうやって万物は連携して生きているのか、関係性を整理されていたと思います。

・ 私の地元は埼玉県川越市ですがかつては湧水が沢山あったそうです。残念ながら全て枯渇してしまいました。何をすれば、どうやったら復活出来るのか、考えています。湧水復活した例などありましたら教えて下さい。また長期的視野では何をしたら良いでしょうか？

・ 「～森林施業ガイドライン」や「横浜市森づくりガイドライン」は、ランドスケープの専門家が入って作っただけあるな！ 今日の記事を自分の活動に取り入れたい人は、ぜひ参考にしたい？

・ コモンズという観点からは、今年全体のテーマに対して、今日の内容がどう寄与する内容だっ

たのかは、咀嚼できませんでした。

・ 様々な視点と経験を持ち実践されている方々が森林に対してそれぞれのアプローチを話し合う場で知識と技術の共有をしながらも、アプローチの差異についてまで、話し合う場を閲覧させてもらいとても勉強になりました。

・ お二人とも、自然に対する敬意があって、時間的、空間的人間との関わりなどからの話をしてくださったので、とても納得できました。また、温かい思いが伝わってきて、それらを実際に調整池や木漏れ日の屋根などに生かす仕事をされていて、素晴らしいと思いました。

・ 廣瀬さんのお話を聞いて、機械を使って山に入っていると見逃してしまうことにも意味があるのだと、改めて気付かされました。また、林業の視点からは経済的に山を利用することが中心となりますが、やはり森林とそれがなす景観は文化や歴史を反映したものであり、短期的な利益のために拙速な方へばかり流れてはいけないと思いました。早速ご著書を注文しました。保さんは、おそらく都市の管理という視点からは敬遠されるようなことも織り込んで緑を持ち込む試みをされていて、きっとそこを利用する人にとって面白いだろうなと思いました。お二方とも興味深いお話でした。景観を計画される方々と林業界が交わっていったら、もっと山や森に関心を持つ人も増えるのかなと思いました。ありがとうございました。

・ 大柏川第一調整池の作り方

・ (廣瀬さん) 風景の読み解きの面白さ、木階段へのきめ細やかな目線

(保さん) 絵画から見る森とのつきあい、「森の涼しさを動物に」

◇6/1 (水) 分科会 3: 森林コモンズと災害・復興<九州北部豪雨による森林被害と復興>

- ・50年前?の洪水のとき、流木を集めて家を建てたというエピソード
- ・面白くつなぐ 横で繋がる
- ・山にくるボランティアたちがアーティストという考え方
- ・アートと信仰の力が、関係人口をつくり、活力になる話が大変印象的でした。
- ・自然に対する私たちの姿勢。
- ・彫刻などアートで森林保全を行われていることに感銘を受けました。
- ・災害をアートやボランティア活動を通して観ることで、多様な見方が出来ると感じました。
- ・最近、アートが医療にも役立つと聞いたところ。災害でも大切とは新鮮な指摘でした。
- ・ボランティア、アートによる災害への向き合い方や復興の事例が大変面白かったです。自然は守るのではないという姿勢はハッとしました。
- ・森づくりへ人と人の巻き込みに art、あるいは何か面白そうと思わせることが大事というお話が印象に残りました。何か自分のこととして関われる感触があれば、入っていける気がしました。災害も、体験教室もきっかけになりうると感じました。
- ・山村塾の小森耕太さんのお話は、台風で甚大な被害を受けた地域に住んでいるだけに、共感と気づきが多くありました。特に、棚田のすごさや達

観したお年寄りの言葉に自然への向き合い方、パッチワークの災害に強い森づくりへの取り組みは、示唆に富んでいて、印象深く、自分の地域でも活かしていきたいと思いました。ありがとうございました。

- ・(小森様)「災害後わかりやすい答えを求めがちなことに注意」(知足様)「自ら考え、自ら決定し、自ら行動するのがアーティスト。社会全体もそうあるべき。」「擬死体験→挿し木文化」

◇6/4 (土) 分科会 4: 森林コモンズと所有・活用<みんなで森を利用する価値とモラルを考える>・クロージングセッション

- ・モラルづくりは、山側も街側も、お互いを知るところから始まること
- ・森林は開かれたもの
- ・森林コモンズより山の社会価値を見直すことが勉強になりました。
- ・数か月前、地域の里山再生の森林に行き、心身ともにとてもリラックス出来た理由がよく分かりました。
- ・山主が「山に価値がない」と思い込んでいる。私なりに、森をMTBトレイルトレイルのコースとして活用してもらっている。当地域では、こんな例は珍しく、他人を山に入れることを極端に嫌う傾向がある。
- ・今の日本の山の事情を都会の人たちは知らない。だからこそ、山側の人たちとの垣根を越えて、分かり合う、共用しあう、ということがこれからの新しい山のあり方につながるのだと、新しい山のあり方についての最新状況が知れた感じがして

います。

・都市の人と山の人の交流が気づき（ニーズ）を生み出すこと。交流にはつなげる立場が必要だということ。

・3人の話を聞いていて、やはり森林の話は所有者・利用者の認識違いを始めとして難しい問題が多く困難であるなと感じた。

・山の所有者も森林の解放に立ち会う事で、所有する山の価値を実感できる（小野様のお話しより）

・「面白そう」という興味から継続的な関わりに繋げる仕組みが必要という問題意識（宮川様のお話しより）

・（小野様）年代ごとの都市住民の生の感触。（宮川様）「チャレンジできるフィールド」としての捉え方。（田口様）所有者の安定的収入としてのレンタルの位置づけ。

・「森に対する申し訳なさ」は私も内在していると感じる。

## < 全体を通じた意見・感想 >

◇参加前に比べて、森林コモンズについて新たな気づきや発見はありましたか。

・公的な共有のイメージが強かったですが、一人一人の意識や関係性が大事なのではないかと思いました。

・森林の自然災害・荒廃をより身近に感じました。

・実際に行ってみる事。人をむかえ入れることに、積極的であること。

・外から森に来た人の様子を見ることで、山主が山の価値を実感することが出来るということ

・様々な観点からのコモンズの在り方があると知りました。

・はい。いろいろな気づきが得られたと思います。

・大変多くの気づきがありました。

・各講師の活動を知ることができ、最新の問題意識をすることができた。

・「山川草木・悉皆成仏」「日本の神仏を取り戻す」「森に対する申し訳なさ」など、新しい視点をいただいた気がします。

・森林コモンズって社会とともに変わっていくことを気づきました。

・今山主さんがお亡くなりになり、森林ボランティアへの参加出来てない。でも息子が林業大学校へ進学しているので今後の森林活用についての智恵がいっぱい、また私自身も関わって行きたいです。よろしくおねがい致します。

・ありました。また活動されている方々の場所にも実際に伺ってみたくおもいました。

・所有についての近代と現代の違い、また所有と使用について分けられるものではないが、ある程度明確にすることで見えてくる課題に気がつくことができました。

旧来型の「コモンズ」の厳しい監視社会の中での緩やかなルールの運用での利用から、現代社会に「コモンズ」として利用を開くには、結局は具体

的なメニューの提示や使用ルールを契約として個々の所有者対個々の契約者という議論に帰着して、現代型「コモンズ」とは呼べないような気がした。

◇森林コモンズについてもっと知りたいことはありますか。

- ・修験道、神仏とのかかわり。
- ・アートとの関係。
- ・発表者のホームページをぼちぼち見て見ます。
- ・具体的な活動事例、そのユーザーや地域の人の反応をもっと知りたいです。
- ・民間企業に所属している人間として、林業や森の社会課題解決に取り組んでいるが、コモンズの視点で、企業はどう関わることが、山側から期待されているか？企業の中は、役員決裁を得ないとプロジェクトの予算が付かない・進められない(=数字になる、価値が生まれる、事業性があるなど)などあり、外部から見えている企業の姿と、企業の中にいる者の違いもあり、山側の森への考えは、うまく「解釈」を担当レベルで加えないとなかなか、社内決裁を得られない現実もあります。
- ・政府・林野庁の認識・取り組みなど
- ・カタカナだとピンとこない面があります。日本語にならないでしょうか。
- ・国にとって、森林コモンズはどのように考えていますか。
- ・コメンテーターの方々の活動の HP 等を見て、訪れたり参加してみたいと思っています。

・登壇者の方々によってさまざまなコモンズの解釈がありそうでしたので、プロジェクトベースで同じフォーマットの上で解釈を整理したものを見てみたいです。

・山や森の川の設計や復興、デザインング、活用について。

・総有ということについて、所有(だれかの所有)でありながら、使用については共有であることについて、うまくやっている事例(市有林、国有林といった所有者がパブリックの場合)を知りたいと思いました。

◇今回参加して、新たに取り組んでみたいことは何ですか。

- ・実際に(身体的に)関わってみたいと思うが体力的に無理であれば関係していききたい。
- ・英彦山の修験道にいつてみたい。
- ・普段、参加している里山再生(コナラ林)により積極的に参加したいと思いました。
- ・ぼちぼち考えます。
- ・森林所有者が外から来た人と関われる場作り。
- ・森での活動に参加してみたい 70代でも大丈夫？
- ・地元の森林について、先住民にとって、移住者にとって、いい形での森との関わり方を考えてみたいです。
- ・林業や森づくり、人と森の関係をよくすることと、企業の論理をどうにか整合させていくこと。

- ・仲間を増やしたい。
- ・実際に山に入り、ベーシックインフラを考えながら挑戦してみたいです。
- ・森林を生業として、少しでも何か関われたらと。
- ・自伐林業を建築設計の副業としてやってみたい  
です。
- ・自伐型林業における地域との連携
- ・現在、市有林を活用する方法を模索しています。  
つまり使用については民が行い、所有は官が行っ  
たうえで、地域内外に開かれた場所として、どう  
していくかを模索する中で「祭り」が一つのき  
かけになりうるものだろうと思っています。
- ・古くて新しい”森”を含む、土地の祭り、それは風  
土という言葉に置き換わるものなのかもしれませんが、長い目をみて、いつか「祭り」が政（まつり  
ごと）にも通じる文化、その継承を、森作りを通し  
てしていきたいと考えています。

**◇今後、全国の集いで取り上げてほしいテーマは  
ありますか？**

- ・皆伐再造林 vs.自伐型林業
- ・林業従事者の暮らしと労働災害
- ・アクロス福岡のような都市緑化（ビオシティ）  
について
- ・具体的な活動事例、そのユーザーや地域の人の  
反応をもっと知りたいです。
- ・山の文化、山の歴史について、特色あるものが

あれば知りたいです。今回の「修験道」はとても興  
味深かったです。

- ・カーボンニュートラルや CSR など、グローバル  
化により、日本の森にはどのように答え行く、ま  
た、どのように主体性を保ちます。
- ・森のシェアについて、都市と森について。
- ・まだ初歩段階ですので全て勉強です。特にあり  
ません。
- ・生物多様性保全を意識した市民活動がどのよう  
に奥山、里山林、都市林の生物多様性機能を高め  
る、あるいはどのような機能を押し上げる整備活  
動をしているのか。

## これまでの「森林と市民を結ぶ全国の集い」

回	開催地	開催日程	開催テーマ
第1回	東京	1996/2/16～18	市民が支える森林づくり
第2回	東京	1997/3/1～2	「市民が支える森林づくり」の実現をめざして
第3回	大阪	1998/2/21～22	「市民が支える森林づくり」の新たな合意をめざして
第4回	宮城	1998/12/5～6	「市民が支える森林づくり」の新たな活動の広がりをめざして
第5回	高知	1999/8/19～22	山の中で考えよう！「みんなで支える森林づくり」 私たちがめざすべきものは何か
第6回	東京	2000/9/15～17	暮らしとともに築く森づくり
第7回	広島	2001/2/9～11	新世紀 森林づくり・地域づくり・人づくり －よりよき関わりを求めて－
第8回	群馬	2002/9/14～16	ともに森を治める社会をつくりだすために 森と人と未来のための群馬ビジョン
第9回	北海道	2003/11/1～4	地域に根ざした森林とのおつき合い 森林づくりの現在を理念から行動へ
第10回	東京	2004/9/18～20	森とともに創るこれからの社会
第11回	愛知	2005/8/26～28	森がうごく、人がうごく。そしてネットワークへ。 森と人との関係をさらに深める。
第12回	大阪	2006/11/11～12	みんなが創る森づくり 森と共に生きる社会をめざして ～参加から協働へ～
第13回	福岡	2008/3/8～9	暮らしにつながる森づくり
第14回	東京	2009/12/5～6	今、あらためて問う「森林」の価値
第15回	岐阜	2011/6/4～5	裏木曾の森を歩こう
第16回	東京	2011/10/9～10	世界森林アクション・サミット
第17回	島根	2012/11/2～4	神在月に集え！島根へ！森林と木を活かす縁結び～
第18回	東京	2014/3/22～23	暮らしとつなげる森林の恵み～都市の視点から考える
第19回	福島	2015/6/12～14	東北復興に果たす森林の役割と市民活動
第20回	東京	2016/6/11-6/12	温故知森～森と私たちとを結ぶ新たな道～
第21回	京都	2017/6/10-6/11	伝統－森林－未来へ～森林と関わる暮らしの歴史を学ぶ～
第22回	東京	2018/6/16-6/17	変わりはじめた「山」・「ひと」・「街」 ～森の価値を分かちあう～
第23回	静岡	2019/6/15～6/16	あなたの森林・里山との「関わりしろ」を考える
第24回	東京	2020/3/14～3/15	世界が取り組むSDGsを、私たちの森に活かす！ ～ともに学び、ともに歩む仲間をつくろう～
【中止】			

回	開催地	開催日程	開催テーマ
第 25 回	東京、岩手、宮城、福島	21/3/7～14	「森林と市民を結ぶ」新たなカタチ ～東日本大震災から10年、コロナ禍のいま～

## 「森林と市民を結ぶ全国の集い 2022」実行委員 スタッフ名簿

名前	所属・肩書	役割
内山 節	哲学者、森づくりフォーラム代表理事	実行委員長
鹿住 貴之	認定 NPO 法人 JUON (樹恩) NETWORK 理事・事務局長	副実行委員長
赤池 円	私の森.jp 編集長	東京 (分科会 2)
小森 耕太	認定 NPO 法人山村塾 代表理事	福岡 (分科会 3)
小野 なぎさ	一般社団法人 森と未来 代表理事	東京 (分科会 4)
後藤 洋一	NPO 法人 樹木・環境ネットワーク協会 事務局長	東京 (分科会 2)
坂本 有希	フェアウッド・パートナーズ/一般財団法人 地球・人間環境フォーラム	東京 (分科会 1)
中島 大輔	自伐林家 / NPO 法人 青梅林業研究グループ	東京 (監事)
中安 祐太	合同会社 百 (MoMo)	宮城 (分科会 4)
星野 晃一郎	株式会社 ダンクソフト 代表取締役	東京 (分科会 3)
水谷 伸吉	一般社団法人 モア・トゥリーズ 事務局長	東京 (分科会 1)
東 大介	林野庁 森林利用課 山村振興緑化推進室 課長補佐	オブザーバー
林 視	公益社団法人 国土緑化推進機構 政策企画部長	国土緑化推進機構 (分科会 1)
矢島 万理	公益社団法人 国土緑化推進機構 政策企画部	国土緑化推進機構 (分科会 4)
宮本 至	NPO 法人 森づくりフォーラム 事務局長	事務局長
石山 恵子	遊学の道 project 代表	事務局
中沢 和彦	NPO 法人 森づくりフォーラム 広報部スタッフ	事務局

**「森林と市民を結ぶ全国の集い 2022」 報告書**

発行日 2022年8月

編集・発行 「森林と市民を結ぶ全国の集い 2022」 実行委員会

事務局 NPO 法人森づくりフォーラム

東京都文京区本郷 2-25-14 第一ライトビル 405

E-mail : [tsudoj@moridukuri.jp](mailto:tsudoj@moridukuri.jp)

編集・校正 宮本 至、石山 恵子、中沢 和彦

本集いは、「緑と水の森林ファンド中央事業」として実施されました。